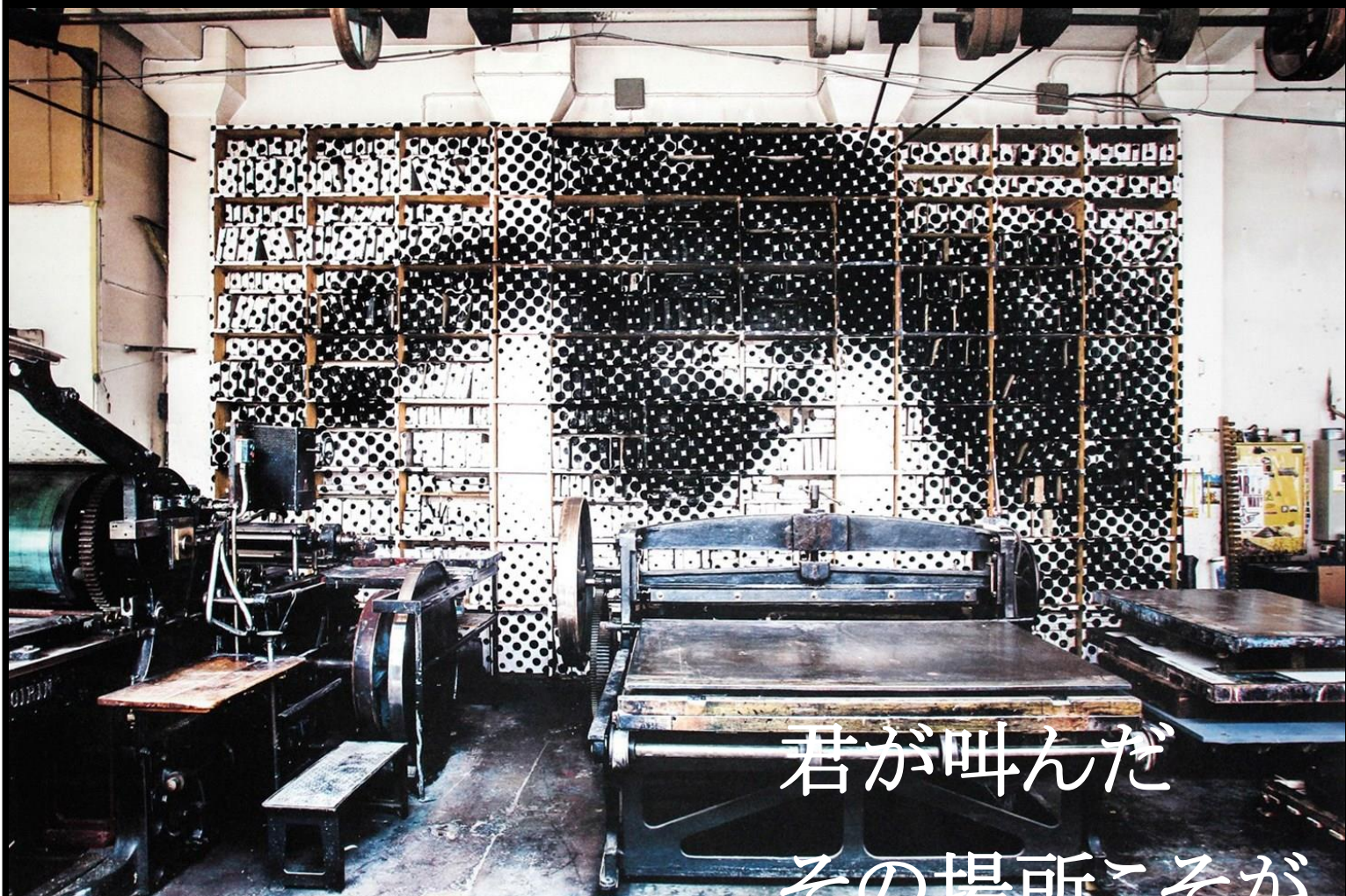


パリ・リトグラフ工房 idem から —現代アーティスト 20 人の叫びと囁き

Voices of 20 Contemporary Artists
at Idem Paris, a Lithography Studio in Montparnasse



JR 《「テーブルに寄りかかる男」(1915-1916)の前のポर्टレイト、パブロ・ピカソ、パリ、フランス》 2013 年

12 | 5 SAT. ▶ 2 | 7 SUN.

開館時間 | 10:00—18:00 * 金曜日は 20:00 まで * 入館は閉館の 30 分前まで
休館日 | 1 月 11 日を除く月曜日、年末年始(12 月 28 日—1 月 1 日)、1 月 12 日(火)
入館料 | 一般 1,000 円、高校・大学生 800 円、中学生以下無料
* 20 名以上の団体は 100 円引き * 障がい者手帳等持参の方は 100 円引(介添者 1 名は無料)
主催 | 東京ステーションギャラリー(公益財団法人東日本鉄道文化財団)、産経新聞社
企画 | 原田マハ、Idem Paris、Item éditions, Paris、東京ステーションギャラリー
助成 | 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
協賛 | 株式会社資生堂 協力 | 小学館

君が叫んだ
その場所こそが
ほんとの世界の
真ん中なのだ。

©羽生光晴/原田マハ

T 東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

JR 東京駅 丸の内北口 改札前 東京都千代田区丸の内 1-9-1 Tel. 03-3212-2485

“LISTEN, I'LL TELL YOU THE TRUTH...
THE ACTUAL CENTER OF THE WORLD IS
WHERE YOU ARE CREATING SOMETHING UNIQUE.”



展覧会概要

リトグラフは19世紀から20世紀初頭にかけてフランスで最も花開いた石版画の技術です。その後、ピカソやマティス、シャガールといった芸術家が1940年代半ばから70年代にかけて数々の名作を生み出したことで再び脚光を浴びました。こうした100年以上にわたるリトグラフの歴史を背景に、モンパルナスの地でリトグラフの技術と創作の伝統を受け継ぎ、1990年代からアーティストとの協同を積極的に行っているのがリトグラフ工房「Idem Paris（イデム・パリ）」です。

最近では、JR、ジャン=ミシェル・アルベロラ、キャロル・ベンザケンなどのフランスのアーティストをはじめ、アメリカの映画監督としても知られるデヴィッド・リンチらがこの工房の磁力に引き寄せられ、また、やなぎみわが今年ここで初めてのリトグラフ制作を行っています。本展はこれらアーティスト20名がidemで制作した約130点のリトグラフで構成されます。

また本展は、作家・原田マハの最新の小説『ロマンシエ』（仏語で“小説家”の意）と連動するもので、小説は、日本からパリに渡った主人公がidemを通じて様々な人に出会い、やがてidemで制作された作品によって日本で展覧会が開催されるまでを描いています。最後は小説から飛び出して、読者も展覧会を実際に体験することができるという本邦初といってもいいユニークなアイデアが盛り込まれているのです。

小説と展覧会の世界の横断がもたらす「リアル×フィクション」の新しい感覚、そして現代のアーティストがリトグラフに見出した新たな可能性をお楽しみ下さい。

出品予定作家

*アルファベット順/生年/生地

ジャン=ミシェル・アルベロラ
Jean-Michel ALBEROLA, 1959-, France

キャロル・ベンザケン
Carole BENZAKEN, 1964-, France

フィリップ・コニエ
Philippe COGNÉE, 1957-, France

ダミアン・ドゥルベ
Damien DEROUBAIX, 1972-, France

JR
JR, 1983-, France

ウィリアム・ケントリッジ
William KENTRIDGE, 1955-, South Africa

ピエール・ラ・ポリス
Pierre LA POLICE, 1959-, FRANCE

李禹煥
LEE Ufan, 1936-, Korea

デヴィッド・リンチ
David LYNCH, 1946-, USA

ポール・マッカーシー
Paul McCARTHY, 1945-, USA

南川史門
MINAMIKAWA Shimon, 1972-, Japan

森山大道
MORIYAMA Daido, 1938-, Japan

プリュヌヌ・ヌーリー
Prune NOURRY, 1985-, France

岡部昌生
OKABE Masao, 1942-, Japan

フランソワーズ・ペトロヴィッチ
Françoise PÉTROVITCH, 1964-, France

レイモンド・ペティボン
Raymond PETIBON, 1957-, USA

辰野登恵子
TATSUNO Toeko, 1950-2014, Japan

バルテレミー・トグオ
Barthélémy TOGUO, 1967-, Cameroon

グザヴィエ・ヴェイヤン
Xavier VEILHAN, 1963-, France

やなぎみわ
YANAGI Miwa, 1967-, Japan

photos: Idem Paris





photos: Idem Paris

みどころ

1 原田マハの小説とリンク

小学館のプチ文芸雑誌『きらら』で、2014年5月から連載が始まった原田マハの『ロマンシエ』。ロマンシエ (Romancier) とはフランス語で“小説家”の意味。画家を目指す美大生の主人公・美智之輔がパリに渡り、様々な人に出会うのですが、その重要人物の一人が小説家・ミハルです。主な舞台は実在するモンパルナスのリトグラフ工房「idem」。主人公の周辺で次々と起きる出来事がテンポよくユーモラスに描かれます。そして小説中でミハルが起案する展覧会が本展であり（*）、小説のつづきを実際に美術館で体験することができるという本邦初の試みです。ちょっと変わった本展のタイトル「君が叫んだその場所こそがほんとの世界の真ん中なのだ。」は、小説中の言葉からとられたものです。なお、連載は本年11月号で最終回を迎え、11月27日頃、小学館より単行本刊行予定です。

*実際の展覧会は原田マハ、Idem Paris、当館による共同企画です。

原田マハ | 1962年、東京都生まれ。伊藤忠商事、森美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館勤務を経て2002年からフリーキュレーターに。2005年『カフーを待ちわびて』で第1回日本ラブストーリー大賞、2012年『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞を受賞。近著『ジヴェルニーの食卓』『太陽の棘』『すべてのドアは、入り口である』『モダン』など、美術をテーマにした著作で高い評価を受けている。



原田マハ 最新刊 『ロマンシエ』

2015年11月27日頃
小学館より発売

本体 1,500円 + 税(予価)

この新刊本の帯を当館に持参いただくと本展入館料が(帯1枚につき1名様) 300円引きになります

フィクション リアル
展覧会と小説を交錯させた新しい試み。

読んで、観て、楽しんで下さい。

—— 原田マハ (小説家)



photos: Idem Paris

みどころ

2 現代アーティストのリトグラフ

かつてピカソやシャガールが版画制作を行ったことでも知られるムルロー工房を、1997年、現在のオーナー、パトリス・フォレストが受け継ぎ、「idem」と改称しました。当時のプレス機は今も大切に使われ、アーティストとidemの協同、あるいはアーティスト同志のコラボレーションがここから生まれています。JRやデヴィッド・リンチをはじめ多くのアーティストがリトグラフの表現の奥深さを知ったのもここidemであり、本展の出品作品は、こうして2000年代に生み出されたリトグラフ約130点で構成されます。

フランスの現代アーティストに贈られるマルセル・デュシャン賞を2004年に受賞したキャロル・ベンザケンが和紙を使って制作した最新作や、やなぎみわが今年ここで石版に直接描いた、自身初となるリトグラフも初披露されます。

*Idem Paris および Item éditions, Paris (併設の画廊)の詳細は下記サイトでご覧になれます。
【Idem Paris】 www.idemparis.com 【Item éditions, Paris】 www.itemeditions.com

みどころ

3 関連イベント

オープニング記念トークショー
「idemは世界の真ん中なのだ。」

やなぎみわ × 原田マハ × パトリス・フォレスト
現代美術家・演出家 小説家 Idem Paris代表

12/5(土) 19:00~20:30 [開場18:30]

東京ステーションギャラリー2F展示室にて/定員70名(未就学児不可)/聴講料500円(税込)/申込方法は11/14(土)以降(ただし11/28,29を除く)の10:00~18:00、電話(☎03-3212-2485)でお申し込み下さい。定員に達し次第受付終了します。聴講料は開催日当日に1F受付でお支払い下さい。閉館後のイベントのため展覧会とはご覧になれません。

ギャラリートーク 学芸員による展覧会解説

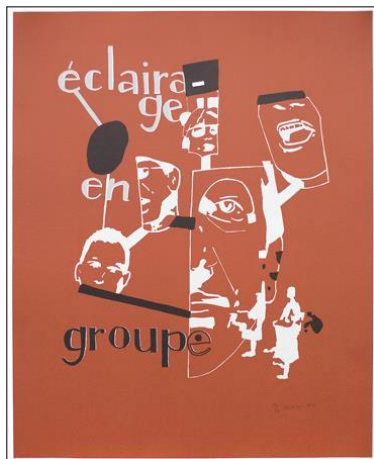
12/18(金) & 1/15(金) 15:30~ [約30分]

参加無料。3F展示室にお集まり下さい。混雑時には中止することがあります。

レンガ・タッチ&トーク 煉瓦が特徴的な当館の建物解説

12/11(金) & 1/8(金) 18:00~ [約20分]

参加無料。定員15名。当日1F受付でお申込み下さい。



01
Jean-Michel Alberola
ジャン=ミシェル・アルベロラ

《みんなで知恵を出しあう》
2012年
67.0×54.0cm

2004年、マルセル・デュシャン賞受賞したベンザケン
は現代フランスを代表する女性アーティスト。絵
画、写真、映像、あるいはそれらを複雑に組み合わ
せ、時間や視覚のズレ、積層を表現する。本展で
は、和紙を用いた新作《マグノリア》を展示予定。



02
Carole Benzaken
キャロル・ベンザケン

《伝道者の言葉 7章24節,VIII》
2007年
76.5×119.0cm



03
Philippe Cognée
フィリップ・コニエ

《香港》
2008年
63.0×81.0cm

世界中の街角に巨大な写真を貼り、政治・宗教・社
会をめぐる問題提起を行うJR。本作は、Idemの工房
内で撮影された写真を元にしたリグラフ。工房の棚
に並ぶ、様々な作家が使用した石版の背に、ピカソ
の目の拡大写真を貼りあわせ、手前にはピカソも使
用したであろう版画のプレス機が配された、Idemへ
のオマージュ的作品。



05
ジェイアール
JR

《「テーブルに寄りかかる男」の前のポートレート、
パブロ・ピカソ、パリ、フランス》
2013年
68.0×101.0cm



04
Damien Deroubaix
ダミアン・ドウルベ

《アスタリス》
2011年
70.0×90.0cm

仏紙「リベラシオン」、雑誌「GQ」などにもイラストを
提供するラ・ポリスは2009年、京都国際マンガユ
ージアムで「スーパージャケット戦隊」展を開催。日
本の特撮や漫画にも影響を受け、映像、壁画も手
掛ける。



07
Pierre La Police
ピエール・ラ・ポリス

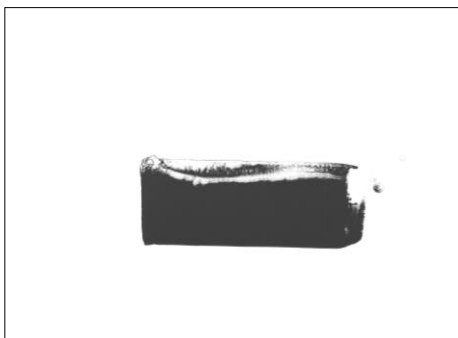
《君のおぞましい蛍光ステッカー》
2007年
40.0×62.5cm

06

William Kentridge
ウィリアム・ケントリッジ

《ストーン・ツリー I》
2013年
83.0×63.0cm





08

Lee Ufan
李禹煥

《(タイトル問合せ中)》

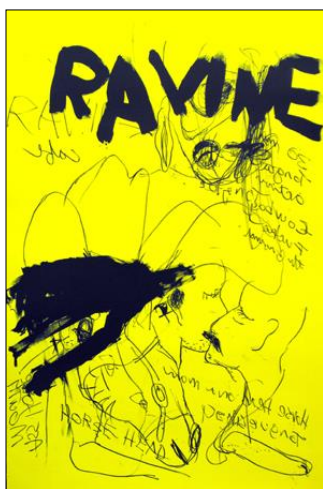
2007年
77.5×105.0cm

映画監督としても知られるリンチは、映像の世界同様に、絵画においても故郷フィラデルフィアの回想イメージを根底とした風変わりな狂気的なムードを漂わせる。本展では、イデムを舞台にした8分の映像や、JRと共同制作した作品も展示。

09

David Lynch
デヴィッド・リンチ

《頭の修理》
2010年
64.0×86.0cm



10

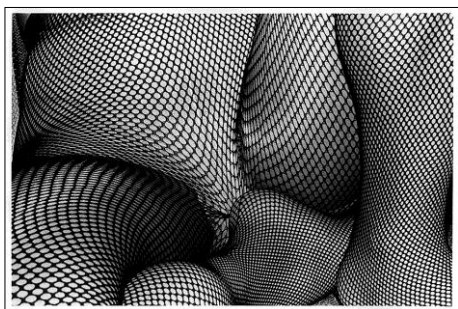
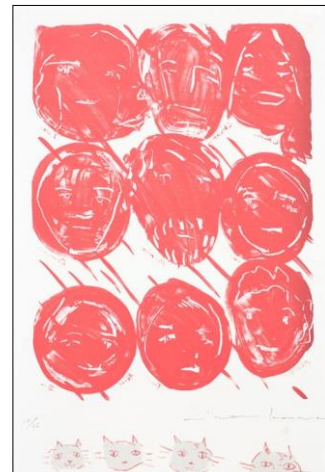
Paul McCarthy
ポール・マッカーシー

《無題21》
2009年
119.0×78.0cm

11

Shimon Minamikawa
南川史門

《9つの顔と4匹の猫》
2003年
48.5x32.5cm



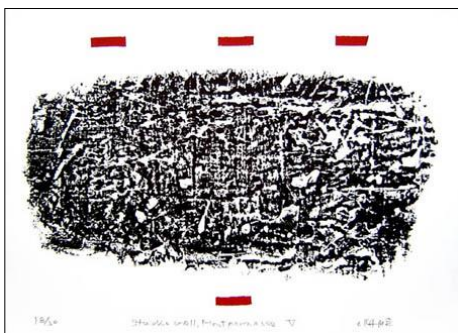
12

Daido Moriyama
森山大道

《(タイトル不詳)》
2015年
72.0×105.0cm

13

Prune Noury
プリュヌ・ヌーリー
《テラコッタの娘たち#7》
2013年
70.0×50.0cm



14

Masao Okabe
岡部昌生

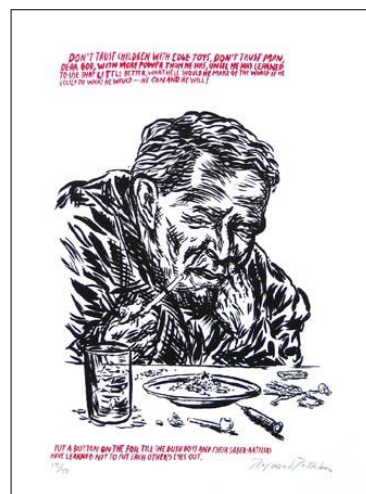
《スタジオの壁、モンパルナスV》
2007年
49.0×66.0cm

ヌーリーは、秦の兵馬俑にヒントを得て、中国の小学生をモデルとした108体の少女俑を制作。アメリカ他で展示後、2015年には西安に埋められ、2030年に再び掘り起こすという大規模なプロジェクトを行う。本展では、少女俑8体のリトグラフが並ぶ。



15
Françoise Pétrovitch
フランソワーズ・ペトロヴィッチ

《姉妹》
2014年
103.0×77.5cm



16
Raymond Pettibon
レイモンド・ペティボン

《無題》
2006年
76.5×56.0cm



17
Toeko Tatsuno
辰野登恵子

《AIWP-8》
2011年
50.0×80.0cm
個人蔵?

トグオはカメルーン生れ。2006年、森美術館「アフリカ・リミックス」展、2015年、ヴェネチア・ビエンナーレ出品。絵画、立体、パフォーマンスによる人体表現で、個人と体制、移民と土着の関係性を浮き彫りにする。



18
Barthélémy Toguo
バルテレミー・トグオ

《明日を待つ》
2010年
56.6×76.0cm

《グランドマザーズ》をはじめ、様々な女性の姿を追い続けるやなぎみわは、近年、世界各地で精力的に舞台演出も行う。本展では、石版に直接描き、初めて手掛けたリトグラフ3点を展示。



19
Xavier Veilhan
グラヴィエ・ヴェイヤン

《フロリアン(黄色)》
2015年
120.0×80.0cm
ギャラリー・ペロタン蔵?



20
Miwa Yanagi
やなぎみわ

《無題II》
2015年
75.5×56.5cm

* 技法・材質はすべて、リトグラフ・紙です。
* 作家名、作品名の表記は変わることがあります。
* 特記なきものはIdem ParisまたはItem éditions, Paris所蔵です。

画像データ 使用申込書

君が叫んだその場所こそが
ほんとの世界の真ん中なのだ 展

画像データ使用申込書

注意事項をお読みになり、ご希望の右記
画像番号をマルで囲み、必要事項をご記
入の上、FAX でお申込み下さい。
画像 (JPEG) はメールでお送りします。

FAX 返信先

東京ステーションギャラリー学芸室

03-3212-2058

画像使用にあたっての注意事項

画像の使用目的は、ここにご記入いた
だいた媒体上の本展紹介記事に限ります。

画像掲載にあたり、画像と一緒に
お送りするキャプションおよび
©クレジットを必ず表記して下さい。

画像を第三者に渡したり、トリミング、
文字のせ、データ改変はしないで下
さい。使用後の画像は消去して下さい。

掲載用の一般問い合わせ電話番号は
「03-3212-2485」として下さい。

当館確認用に、必ずゲラ刷りの段階で、
原稿を上記 FAX 宛にお送り下さい

掲載いただいた場合、お手数ですが掲載
紙 (誌) をお送り下さい。

読者プレゼント用招待券は、記事掲載を
確認させていただいた後、ご記入の右記
住所宛にお送りします。(各当選者への
発送は御社負担にてお願いします)

本展広報に関するお問い合わせ

東京ステーションギャラリー
学芸室 (清水・柚花)

☎03-3212-2763

 TOKYO STATION
GALLERY

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 01 ジャン=ミシェル・アルペロラ | 11 南川史門 [みなみかわ しもん] |
| 02 キャロル・ベンザケン | 12 森山大道 [もりやま たいどう] |
| 03 フィリップ・コニエ | 13 プリュンヌ・ヌーリー |
| 04 ダミアン・ドウルベ | 14 岡部昌生 [おかべ まさお] |
| 05 JR [ジェイアール] | 15 フランソワーズ・ペトロヴィッチ |
| 06 ウィリアム・ケントリッジ | 16 レイモンド・ペティボン |
| 07 ピエール・ラ・ポリス | 17 辰野登恵子 [たつの とえこ] |
| 08 李禹煥 [リー ウーファン] | 18 バルテレミー・トグォ |
| 09 デヴィッド・リンチ | 19 グザヴィエ・ヴェイヤン |
| 10 ポール・マッカーシー | 20 やなぎみわ |

貴社名

ご担当者名

ご住所

〒.....

Tel.

Fax.

E-mail

媒体名

掲載コーナー名

掲載日 (予定)

..... 月 日号 発売日 月 日

読者プレゼント用招待券

希望する (..... 組 名様 ※10 枚まで) 希望しない

このたび、東京ステーションギャラリーにおきまして標記の展覧会を開催する運びとなりました。

つきましては、右記のとおり、プレス内覧会を行いますので、出席ご希望の方は本用紙にご記入の上、12月2日[水]までに下記FAX宛にお送り下さい。

FAX返信先

東京ステーションギャラリー学芸室

03-3212-2058

下記の注意事項をお守りください

当日、受付でこのFAX用紙をご提示下さい。

当日、御社名入の腕章を持参・着用して下さい。

作品により、取材撮影（静止画・動画にかかわらず）不可のものが 있습니다。当日、お渡しする撮影可／不可のリストをご覧になり、留意の上、撮影をして下さい。

当館専用の駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用頂くか、公共交通機関でお越し下さい。

15:30より一般招待客の受付・内覧が始まります。（17:30終了）

本展広報に関するお問い合わせ先

東京ステーションギャラリー
学芸室（清水・柚花）
☎ 03-3212-2763



君が叫んだその場所こそが
ほんとの世界の真ん中なのだ 展

プレス内覧会

日時

2015年 **12**月**4**日 [金]

13:00～ プレス受付開始

13:30～ 概要説明

本展企画者 原田マハ氏

Idem Paris 代表 パトリス・フォレスト氏

会場

東京ステーションギャラリー

JR 東京駅 丸の内北口 改札前

【プレス内覧会申込】

貴社名／媒体名

ご出席者名（代表者）

Tel.

Fax.

E-mail.

※撮影を希望される場合はあわせて下記もご記入ください

撮影チーム人数人

撮影機材 TV カメラ カメラ その他